



January



「主に喜んでいただく教会を目指しつつ」

東京中央教会主任牧師 板東 洋三郎

「兵役に服している者は、日常生活の事に関わられてはいない。ただ、兵を募った司令官を喜ばせようと務める。」(テモテへの第二の手紙2:4)

新年おめでとございます。年の初めはわたしたちの進んでいく人生の方向や生活の焦点を再検討、再確認する良い機会です。新しい一年の旅に出ることができるならば、旅に出る前に目的地やまた目的そのものを確認しておくことが大切であるように、私たちも、教会として新しい一年の旅を始めるとき、それらを再確認しておくことはとても大切なことと思われま

す。そもそも教会とは何で、またその存在の目的は何なのでしょう。教会は建物でも組織でもありません。それらはその目的を果たすために必要かつ重要であることは言うまでもありませんが、教会はキリストの弟子達の集合体です。弟子は師によって招かれることによってのみ弟子になることができました。みずから立候補して弟子になることはできませんでした(ヨハネ5:16)。しかも、彼らが召

されたのは、クラブや同好会を作って楽しむことではなく、特定の使命を持って送り出されるためでありました。キリストが天にお帰りになる直前に弟子達にお与えられた、いわゆる「大宣教命令」がそれをはっきりと示しています(マタイ28:18, 20)。「教会」と訳されているギリシャ語はエクレシアで、特定の使命を持って召集あるは派遣される使節団(ミッション)という意味を持っています。一つの使節団は特定の使命を持っています。同様に、教会はキリストの弟子を作ること、またその教えを伝えるという明確な使命が与えられ

ています。教会の働きの全てはここに集約されます。

一方、使徒パウロは弟子を兵士になぞらえています。銃を持つ兵士の目的は、敵を滅ぼすことです。そのため命を懸けるわけです。しかし、彼は、弟子であるキリストの「兵士」あるはその集合体である教会は、師であり司令官であるキリストを喜ばせる事が存在の理由であると言います(テモテへの第二の手紙2:7)。この



目的がはっきりしていると、煩悩が多いと見える人生、あるいは教会生活や種加においても優先順位がはっきりしますので、判断がしやすくなります。パウロはまた、教会をキリストのからだであると言います(コリント人への第一の手紙12:27)。体は細胞、器官、組織からなっていて、それらが造られた目的を忠実に果たしているとき、全体としての体が健康であるように、キリストの体で

ミッション・ステートメント
私たちSDA東京中央教会員は
キリストの間近いご再臨に備え
互いに愛する教会
み言葉を学ぶ教会
主を讃美する教会
共に祈る教会
互いに受け容れる教会
恵みを分かち合う教会
常に成長する教会
を目指しています

ある教会においても、「それぞれの部分も」(目的)に心して働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていく(エペソ人への手紙4:16)と使徒は約束しています。

東京中央教会は、主に喜んでいただく教会を目指して、ミッション・ステートメントのかたちでその目標を掲げております。今年もこの目標を常に念頭に置きつつ、主のお恵みとお導きによって、主に喜ばれる個人また教会へと成長できるよう一緒に頑張って参りたいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

南カリフォルニアの成長する諸教会を訪ねて(連載第1回)

東京東地区牧師会研修旅行(2002年11月15日~27日)

板東 洋三郎

今回は、南カリフォルニアの成長している教会や、特徴ある教会を見学するのが目的で、SDA nonSDAを含む10以上の教会並びに機関を見学しました。以下、その印象メモです。

ロマリダ大教会 (LLU Church) 1月15日 (土)

十年別の教課
 第1礼拝は10:30 60余名の聖歌隊とアンサンブル、讃歌はAlyssa (讃美歌)。主日礼拝は、LLU教会がコミュニティに対して持つビジョンを話した。司会者は、講壇使徒の名のバプテスマを受けた。その後出席者は、この後安息日学校は、教員講義型で、平日は年間のバプテスマと建物の建設をした。アパッチの出生地がバプテスマを受けて、多量に建てられた。幼少バプテスマのほとんどは、この後第2礼拝もある。

9:30 11:5の3回、礼拝が始まると入りは規制される。礼拝を取り巻くオープンなスペースがあり、椅子をかけて各自自由移動する。零から青年は、年別の集まりは別所でも行われる。礼拝者は平日は、礼拝上での移動も、服装は、讃歌とバプテスマを除いてほとんどがカジュアル。講壇は、まどと遠く、所で、床は横たわって、見る男性性が、全感感の、その為、



ロマリダ大学教会の礼拝風景

音楽は、ピアノ、ギター、ドラム、サクソフーン奏で、3名の女性のソングリーダーが、現風の讃歌を始め、伝統的讃歌へと移り、讃歌を備えた。パイプオルガン。

スピーカーは、ジャック・スミス牧師で、推測が8歳後である。当日の讃歌は、エステリから、神の援助テーマで、物語、讃歌、ために、礼拝次第は、ソング・サービス、祈り、発表、讃美、礼拝である。

毎日曜日には、英語による、そのために、別場所、異なる、韓国、スペイン語、アラブ語、韓国語(以上礼拝)、日本語(聖書研究)、ペルシャ語(交わり)がある。平日は、月曜から金曜の前6:30~午後:30 祈り、聖書研究、弟訓練、癌患者サポート、プログラム、伝道養成講座、中国語による聖書研究、シングル、マザーのためのサポート・プログラム等が、午前と夜もある。

土曜日は、午後、礼拝、聖書研究、10:00 礼拝出席する人は、100人を超えると思われる。RMCオーストラリア

(以下 次号)

ロマリダ大学・ヤング・アダルト教会 (University Young Adult Worship LLU) 11月16日 (土)

同じキャンパスで異なる讃美、それぞれに礼拝から離れた講壇の地下で礼拝、音楽は、典型的な現風のソング、ソングリーダーが4名とドラムを含むバンドが、かなりの音量で演奏した。讃歌は、その際、青年の証、礼拝で並行して、また、安息日学校では、混声のユース・ゴアヤカ風のスーツを着て、礼拝の讃歌をした。聖歌の全、異なるこの讃歌、同じキャンパスで、同時に、しかも、自然な評定、なされている。UYAWは、礼拝だけでなく、一つのミニストリーで、大教会の主日礼拝を含む、牧師スタッフの、そのための、カッパの、スポンサーが、聖書院、カウセンズ、祈り、近隣の愛人に対する、そのための、ボランティアなど、奉仕活動を行う。

カルヴァリー・チャペル(単立教会) 1月15日 (日)

自由な雰囲気の中で、全館、ソングの建物、広大な、聖壇がある。礼拝は、その内容、長き、その、開かれた、が、使われる、床、カーペット。礼拝は、7:45

聖句と私

「み言葉より イスにまかされて」

今勝



『イエをとつた

2歳で書道を始めました。6歳で教壇を卒業しましたが人生の事は積み出したと思ふ。その後、更に開拓をなしております。去る月の初め、玉川園の牧師と学部の部長さんと会して、子供向けの聖書箱「さあ、ゆき」1冊と動物本「やわもみんはきこる」いただきました。故原宿光が創設した玉川園は、小田急玉川線駅近く、広大なキャンパスの牧師から大学までの立派な校舎が立ち並び、何れの時にも圧倒される思ひでした。長い間の滞在をしておき、初めは訪れる時はやは驚きます。今、そんな力をかけてくれるみ言葉は「ローマ」10:9-11です。『9. すなわち、自分の口で イスにまかされると告げ、自分の心で 神の死の中からイスをよみがえらせたいならば、あなたは救われる。 10. なぜなら、人は信じ義とされ、口で告げて救われるからである。 11. 聖書は「すべての信じる者は、失望することはない」と言われる。』そしてこの中で「ペテロ」4:14『キリストの名のために死なれるならば、あなたは幸いです。その時は、栄耀の霊、神の霊があなたに宿るからである』とみ言葉が書きまわしなっています。み言葉を黙して聴き、み言葉によって自分の心が救われて、たとひ、諍言聞けず、とらことを改めて感させられておます。み言葉より イスにまかされて、今後キリストの霊がともみわたり、とらと思っております。

「ローマ」 10:9-11で

原宿彩

「うたがいっぱい！」の12月でした

「今月は音楽好きにはたまりませんね！」という声しきりの師走。原宿パロック・アンサンブル(1日)、広島三育学院高校聖歌隊による音楽礼拝、子供Xマス(14日)、Xマス礼拝 with ハンドベル、ピーハイブ・Xマス・ライブ、チャペルコンサート(21日)、聖歌隊によるXマスキャロル(24日)と、教会はうるわしい楽の音に満たされました。猛練習を重ねて恵みの時を与えて下さった演奏者の皆さん、推進役の皆さん、ありがとうございます！

(付記。チャペルコンサートにはベシアナちゃんが見聴衆の皆さんに明るい笑顔でご挨拶。折からの雨のためか人数が60人も少ないにも拘らず、前回とほぼ同額の献金が寄せられました。)

感謝のタラント、大賞受賞

安息日学校目標や毎期の安息日学校テーマ曲の歌詞。墨痕鮮やかな字を前に、背筋をシャンと伸ばしておられる方も多いのではないのでしょうか？ この素晴らしい字を書いて下さっている赤塚孝江さんが、第35回現代臨書展で大賞をお取りになったそうです。1月11日(土)~17日(金)まで、上野にある東京都美術館で展覧会が開催されています。教会でご奉仕下さるこのタラントを共に喜びたいものです。

園田夏さんのある日の出来事

宿泊していた九州のホテルでの朝食時、たまたまそこで食事をしていた若い青年とお友達になりました。青年の話を聞いてみると、なんと自転車世界一周を成し遂げ、そしてまた、子ども達に夢の大切さを語りながら日本一周をしているとのこと。感動して東京の稲城に帰宅したその夜。購読している『サインズ』(2002年12月号)を開いてみると、そこには、今朝会ったばかりの青年が特別記事でインタビューされていました！ その名は、坂本達さん。その奇遇をニュースとして教えて下さいました。こんな嬉しい出会いならいくらでもしてみたいですね。ちなみに、坂本達さんは、昨年末12月25日に沖縄で無事日本縦断を成し遂げました。

伊藤冬子さん

が1月7日、98歳のお誕生日を迎えられました。風邪がみですが、お元氣です。おめでとうございます！

俳句
八十路越へ賀状の筆のままならず (夏)
冬つら箱根連山見はるけし (茂子)
明日といふ未知を求めて磨買ふ (茂子)
毛糸編むひたすら忍ぶ戦中下 (茂子)
底冷えを子等脛高く急ぎけり (保夫)
ひなたほこ幼女ふたりの秘めばなし (保夫)

バイブル豆事典

「角笛を吹き鳴らす日」

新年のことをヘブライ語で、「ローシュ・ハシャナ（年の頭の意）といい、聖書では唯一、エゼキエル40：1にこの言葉が使われています。レビ記23章23節の第七の月（チスリ）1日が「ローシュ・ハシャナ」として祝われる日です。週の七日目が安息日であるように、月の第七番目は一年のうちでもっとも聖なる月だとされました。「七月一日をあなたがたの安息の日とし、ラッパを吹き鳴らして記念する聖会としなければならない。（レビ記23：23）」このように民は集い、ラッパ（雄羊の角笛）が吹かれます。ラッパは民に、新たな生活を送る決意と、自らの罪の悔い改めを促すものでした。ラッパは人々の良心を呼び起こし、神の御心を求めるために吹かれました。このため新年は「角笛を吹き鳴らす日」として知られています。イスラエルの歴史の中で、洪水やいなごの大群などのような迫り来る災害や、外国の軍隊の侵入を民に知らせるのにも、ラッパは吹き鳴らされました。まさにラッパは神の声の象徴でした。新年の後、十日目に来るのが贖罪日です。新年から始まる十日間は自分を省み、神様に心を注ぎだす特別な日々でした。新年のスタートに、神様に心を向け、新たな恵みの日々を重ねていきたいですね、ラッパの音を合図に私たちを迎えに来て下さるイエス様に希望をおいて。

* 聖書で言う第一の月は、過越祭のあるニサンの月で、4月頃にあたります。

（東京中央教会副牧師 ウォータズ・今日子）

1月のスケジュール

- 1 / 1 (水) 元旦礼拝 花田憲彦副牧師 11:00~
- / 4 (土) [説]板東洋三郎牧師&子供のお話
- / 11 (土) [説]板東洋三郎牧師&子供のお話
役員会
- / 18 (土) [説]板東洋三郎牧師&子供のお話
讚美と証の会
小羊クラブ 14:00~15:00 和室
- / 25 (土) [説]花田憲彦副牧師&子供のお話

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

新年明けましておめでとうございます。
2003年スタートいたしました。皆様はどのような思いで、この新年をお迎えになりましたでしょうか。今年は未年です。羊飼いイエス様に従う私たち羊の年であると言えるのではないのでしょうか。年頭の挨拶に代えて、聖句「詩篇100:1~3」をご紹介します。本年も皆様にますます愛される月報にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 (Y.M.)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司
[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫